

地方の財政 [2] 財政の役割

別所俊一郎

事務連絡

- 資料置き場
 - ▣ <http://web.keio.jp/~bessho/lecture/index.html>



そもそも...

- 財政の果たすべき役割とはなにか？
- 政府がなかったらどうなるか？
 - ▣ 「無政府状態」になる
 - ▣ 九龍城砦1945-1987：清の飛び地となった香港の一部
 - 無計画な増築、スラム街化、売春、薬物売買、賭博...
 - 現在は公園として整備されている
 - 自警団：政府の役割のひとつをはたす
- 政府しかなかったらどうなるか？
 - ▣ 共産主義国家、社会主義国家
 - ▣ 政府が重点を置かない分野の発展の遅れ
 - モノ不足など
- 政府はそこそこに存在するのが望ましい
 - ▣ 「どれくらい？」についてはさまざまな意見

ところでミクロ経済学では...

- 厚生経済学の第一基本定理
 - ▣ 市場が完全であれば、市場均衡として実現する資源配分はパレート最適である
- 矛盾ではない
 - ▣ 定理自体は正しい
 - ▣ 政府がないと好ましい状況にならないのも正しい
→定理の仮定が妥当ではない
- 「市場が完全である」は現実的ではない
 - ▣ では、完全な市場とは？
 - ▣ 「市場の失敗 market failure」とも、

不完全な市場：公共財・外部性

- 公共財・外部性とは
 - 公共財：消費を排除できなかつたり、消費しても減らなかつたりする財
 - 外交、灯台、景色、環境、インフラストラクチャなど
 - 外部性：ある財の消費が、他の経済主体の生産・消費・効用等に、価格を経由せずに影響すること
 - 公害、喫煙、伝染病、義務教育、環境など
- なにが問題？
 - 公共財や正の外部性のある財は、パレート最適な水準よりも過少にしか供給されない：ただ乗りしたくなる
 - 負の外部性のある財はパレート最適な水準よりも過大に供給される：「迷惑料」を払わなくてよいので
- ここに政府の介入の余地、必要性
 - 政府自身が財を供給する、補助金や税をつくる、など

不完全な市場：情報の問題

- 情報の非対称性
 - 売り手と買い手のあいだで持っている情報に差があること
 - 例：保険の売り手は買い手のリスクを知らない
 - 自動車保険の売り手が、運転手の大胆さを知らない
 - 健康保険の売り手が、買い手の健康さを知らない
 - 例：患者は自分の病状を医者ほどには理解していない
- 何が問題？
 - 情報の非対称性がある市場は取引が小さくなつたり、市場自体がなくなつたりする
 - 逆選択やモラルハザードの問題
- 政府の介入の余地
 - 強制的に購入させる、など

不完全な市場

- もっと基本的なところで
- 所有権が確立していない／侵害される
 - 市場は「持っているものを取引する」のが基本
 - 公共財や外部性の問題の本質でもあるが
 - 泥棒や詐欺、殺人など
 - 知的財産権の侵害
- 何が問題？
 - 取引自体が発生しなくなる
 - 分業の利益が発生しない
 - 生産量も減少するかもしれない
- 政府の介入の余地・必要性
 - 司法・治安・警察・特許など

財政の役割（Musgraveの定義）

- 資源配分上の機能（Resource Allocation）
 - 市場の失敗の矯正
- 所得分配上の機能（Income [Re]distribution）
 - 市場が完全であっても、社会的に好ましい状況になるとは限らない
- マクロ経済の安定化機能
 - 現在では、資源配分と所得分配の問題の一種ともみなされる
- （将来世代への配慮）

資源配分上の機能

9

- 介入がなければ非効率性が発生するケース
 - 公共財 (public goods)
 - 外部性 (externality)
 - 所有権の確定・情報公開・特許
 - 自然独占 (monopoly)
- 非効率性 (inefficiency) の例
 - ただ乗り (free ride) ・公害
 - 独占による過小供給
- 司法・治安・検疫・社会資本・義務教育など

- メリット財？

所得分配上の機能

10

- 市場メカニズムは必ずしも「公平」を実現しない
 - 運・不運
 - 初期配分
- 累進課税・社会保障
 - 経済状態の恵まれた人から恵まれていない人へ所得や資産を移転する
- 現在の先進諸国の財政支出のかなりの部分は所得再分配にかかわるもの
 - 社会保障：年金, 医療, 福祉, 教育など

マクロ経済の安定化機能

11

- 不況＝市場の失敗
 - 価格の硬直性／独占的競争など
 - 労働の不完全雇用 (失業)
 - 資本の不完全雇用 (稼働率の低下)
- ケインジアン的な介入
 - 公共事業の拡大／減税
 - 金融緩和
- インフレ・景気過熱の抑制も

将来世代への配慮

12

- 将来世代は現在の意思決定に参加できない
 - 資本蓄積が過小／過大
 - 環境破壊
 - 公的インフラの未整備...

政府の失敗

13

- 「Harvey Roadの前提」は成り立つか
 - 政府は効率的な無私なエリートによって支えられ、エリートの規律によって保たれるという前提
 - 要するに「官は民よりエライ」
- 政府だって失敗する
 - 公共選択論 (public choice) の系譜
 - 官僚・政党・利益団体の政治活動の分析

市場をどこまで信頼するか①

14

- 夜警国家論 (安価な政府)
 - A. Smith (18世紀) にはじまる
 - 政府はなるべく介入すべきでない
 - 防衛・司法・インフラ整備のみ
 - ミクロレベルでの役割を重視
- 小さな政府
 - サッチャリズム・レーガノミックス (1970年代後半～)
 - サプライサイド経済学
 - 労働・貯蓄・投資への税の悪影響を重視

市場をどこまで信頼するか②

15

- ケインズ主義
 - ケインズ (20世紀前半)
 - 市場はつねに完全雇用を達成するとは限らない
 - 政府が「有効需要」を創出する必要性
 - マクロレベルでの役割を重視 (fiscal policy)
- 福祉国家論
 - 公共投資・社会保障による完全雇用の実現
 - 年金・医療・失業の社会保険の整備
 - 1960年代の財政政策に影響：とくに北欧

市場をどこまで信頼するか③

16

- 適切な政府の大きさとは
 - 市場への過度の期待の縮小 (90年代以降)
 - 市場の暴力・不安定性
 - 規制改革
- 市場と政府のバランスをとることが必要
 - GDPや職員数などで測ることはできるか?
 - 透明なルールの設定
 - プレイヤーから審判へ